

第7日

令和2年3月2日（月）

午前9時30分開議

○議長（堀尾俊浩君） これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は18名で、会議は成立いたします。

本日の議事日程については、お手元に配付のとおりであります。御了承願います。

日程に従い、2月28日に引き続き一般質問を行います。

それでは、3番北川清文議員の質問を許可いたします。3番北川清文議員。

（3番北川清文君登壇）

○3番（北川清文君） おはようございます。傍聴席の皆様、また、インターネットでらんいただいております皆様、おはようございます。早朝より傍聴に御来場いただきまして、まことにありがとうございます。皆様方のおかげで2度目の壇上に立たせていただきました北川清文でございます。

ことは、東京オリンピック・パラリンピックの開催を迎えようとしておりますが、今、世界中を恐怖の渦に巻き込んでいますのが新型コロナウイルスの感染拡大がということでございます。連日、報道されています。福岡市でも、また北九州市でも感染が確認されたと報道されています。憂慮にたえない気持ちでございます。

私たちお互い一人一人が、エチケット、マナーを持って感染拡大を阻止するよう心がけたいものと思っております。一刻も早い収束を願うばかりです。

平成29年の災害から3年を迎えようとしていますが、まだまだ被災者の皆様、そして、地域も復興道半ばであります。私たち朝倉市議会は、朝倉市とともに市民一体となって、さまざまな問題に取り組んでいかなければなりません。市民の皆様、そして、朝倉市地域振興・発展のために努力させていただきます。今後とも皆様方の御協力と御支援のほどをよろしくお願いいたします。

通告書に従いまして、これよりは質問席にて続けさせていただきます。執行部の皆様におかれましては、明快な回答をお願いいたします。

（3番北川清文君降壇）

○議長（堀尾俊浩君） 3番北川清文議員。

○3番（北川清文君） それでは、1番の新学習指導要領の内容について質問をさせていただきます。

教育は、「国の大もととなり」と言われて、「十年の計をなさんとすれば木を植えよ、百年の計をなさんとすれば人を育てよ」とも言われています。まさに教育は、一国の盛衰にいかに重要なものであるかをつぶさに教えられます。

来年度、小学校でプログラミング教育を導入する新学習指導要領の全面実施が4月に迫る中、そもそもプログラミング教育というものは、どういうものかをお尋ねいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 教育部長。

○教育部長（山南哲也君） お答えさせていただきます。

現在、コンピューターは、家電や自動車を初め身近なものに内蔵されておりまして、人々の生活を便利で豊かなものにしております。世の中がコンピューターやプログラミング等の情報技術によって支えられていることを理解していく必要がございます。また、この技術によって身近な問題の解決や社会貢献ができるのだという意識を育むことも大切であります。

既に、プログラミングの能力を開花させて創造力を発揮して起業する若者、それから、特許を取得する子ども、こういう者もあらわれているようでございます。

子どもが秘めている可能性を発掘し、将来の社会で活躍できるきっかけとなることが期待されておりまして、諸外国においても初等教育の段階からこのプログラミング教育を導入する動きが見られております。

こうしたことから、このたびの学習指導要領改訂において、小学校においてこのことが導入されることとなっております。

このプログラミング教育とは、コンピューターに自分で意図した処理を行うように指示することができることを子どもたちに体験させ、プログラムの働きのよさや情報社会がコンピューター等の情報技術によって支えられていることに気づくことができるようにして、子どものプログラミング的思考を育成するものでございます。

○議長（堀尾俊浩君） 3番。

○3番（北川清文君） 2019年、平成29年度に文科省が行った調査によりますと、全国で少なくとも15の自治体で全小学校にプログラミング教育を導入していると報告されています。

朝倉市でも準備が進められていると思いますが、先生方の研修であったり、学校側の受け入れ体制等の進捗状況をお聞かせください。

○議長（堀尾俊浩君） 教育部長。

○教育部長（山南哲也君） 議員申されますように、プログラミング教育の実施で懸念されるのが、教師の指導力でございます。パソコンに堪能な教師もいれば、そうでない教師もいます。しかし、ここで求められる指導力は、教師が専門的なプログラム言語を使って指導をするものではないということでございます。

このためプログラミング教育への理解を図る研修、これを行ったり、教師のコンピューター操作技術を高める研修を行ったりすることが大切であるということです。

また、高度な技術の教育を導入したい学校には、外部の人材を活用していくことが大事だというふうに考えています。

本年度、朝倉市で行われました理科の研究発表会においては、センサーを制御することにより人が近づいたら明かりが点灯するプログラムを考える授業を公開しています。これ

らの取り組みによって子どものプログラミング的思考の育成に努めるとともに、先生方には授業のあり方とか授業力の向上というものを図っていききたいというふうに考えております。

各小学校においては、プログラミング教育を行うことができる授業内容を教育課程に位置づけて、指導計画を作成して、新学習指導要領の全面実施に備えているところであります。

○議長（堀尾俊浩君） 3番。

○3番（北川清文君） 授業で使用するタブレットの導入やプログラミング用のソフトやアプリの準備も大変と思いますが、教員向けにはカリキュラムに対応した指導案、ワークシート、子どもたちが授業中に使用する教材、プログラム、ソフトなどの操作の説明動画などの授業をつくるためのものを教育委員会が具体的なやり方を示すことで先生方の負担軽減になるのではないかとこのように思っております。

学校にプログラミング学習の実施を呼びかけるだけでは定着しないと思います。教育も平等です。教育に待ったはかけられません。将来を担う子どもたちの教育のために新学習指導要領に沿った準備を進めていただきたいというふうに思っております。

続きまして、(2)のGIGAスクールとは、について質問をさせていただきます。

子ども一人一人に最適化された学習を進めようと政府がGIGAスクール構想を打ち出しましたが、このGIGAスクールについて、どのようなものかをお尋ねいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 教育部長。

○教育部長（山南哲也君） 国が示しておりますGIGAスクール構想、これにつきましては、安心と成長の未来を開く総合経済対策におきまして、学校における高速大容量のネットワーク環境の整備を推進するとともに、特に、義務教育段階において、令和5年度までに全学年の児童生徒一人一人が、それぞれ端末を持ち、十分に活用できる環境の実現を目指すということが示されておるところでございます。

これに基づきまして、令和元年度——本年度、補正予算（案）において、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するための事業費として2,318億円が盛り込まれました。

具体的には、1つ目に、校内通信ネットワークの整備、2つ目に、児童生徒1人1台端末の整備、この2つの補助事業でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 3番。

○3番（北川清文君） GIGAスクールの実現のために、今申されましたように、政府は2019年、令和元年度補正予算（案）に2,318億円を計上されました。

萩生田文科相は、この機会を絶対に逃すことなく、学校、教育委員会のみならず、各自治体の首長、調達、財政、情報担当部局など関係者が一丸となって実現してほしいとするメッセージを発表されております。

小学校、中学校をまたいで継続的に使用することでICTになれさせるねらいがあるのかなと思いますが、政府の主導で全国の児童生徒が1人1台のパソコンやタブレット端末で学習する時代がやってくると、タブレットによる授業が進む学校では、子どもたちの意欲の向上など既に変化が見られると報道されております。先行している自治体は、どのように活用されていますでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 教育部長。

○教育部長（山南哲也君） 近隣の先行事例について回答させていただきますが、うきは市においてでございますが、うきは市においては、平成28年度に校内、教室内の無線LAN環境の設置、それから、大型提示装置、書画カメラの設置、デジタル教科書の導入が行われております。

また、タブレットにつきましては、2クラスに1セットの配備ということで行われているようです。このタブレット端末を使うことによりまして、一斉指導による学習に加えて、子どもたち一人一人の能力や特性に応じた個別学習や、子どもたち同士が教え合い、学び合う共同学習、これを効果的に行うことができるようになりまして、子どもたちの学習意欲が高まって、みずからが進んで学習に取り組む子どもが育っているという報告を受けております。

○議長（堀尾俊浩君） 3番。

○3番（北川清文君） 文部科学省の調査によりますと、公立校では2019年3月時点で都道府県別では佐賀県の準備が最も進んでおり、九州で最も遅い福岡県とは配備率に約4倍の開きがあると報道されています。

配備率でいいますと、全国1位、佐賀県1.9人、2位、鹿児島県3.3人、8位、長崎県4.2人、9位、大分県4.3人、14位、熊本県4.4人、24位、宮崎県4.9人、そして、44位、福岡県7.1人という統計が出ています。

10年前の2009年は、全国で7.2人に1台でありました。萩生田文科相は、1人1台のICT教育環境の実現に当たり、これからの学校教育は劇的に変わると言及されております。

プログラミング教育とGIGAスクール構想導入をすることで、子どもたちの意識はどのように変化していくと思われそうですでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 教育部長。

○教育部長（山南哲也君） タブレット端末、これが身近になると、使えるようになるということはもちろんでございますけれども、それだけではございませんで、これからの社会は技術革新が一層進展して、新しい価値やサービスが次々と創出されまして、暮らしや働き方も変化していきます。そのような時代の中で、情報活用能力を身につけて、予測できない変化を前向きに受けとめて、みずからの可能性を發揮する力を育む、そういう人に成長することができるかと考えております。

○議長（堀尾俊浩君） 3番。

○3番（北川清文君） 教育現場の先生方の支援とサポートをする専門の先生方をつけるべきではないかというふうに思います。今後も持続可能な教育振興、発展のために、さらなる御支援をよろしくお願いいたします。

続きまして、2の小石原川ダム湖畔の利用について、地域発展についてということでお尋ねをいたしますが、昭和55年度小石原川ダム建設事業始まりの予備調査が開始されました。そして、平成18年3月、朝倉市誕生と同じ年に小石原川ダム建設工事に関する事業実施計画が認可されました。

昭和、平成、令和と時代を移り変わって40年間の歳月を要して、令和2年3月に完成予定されています小石原川ダムの高さは、九州で一番高いダム139メートルの魅力、そして、地域発展に結びつくように発信していかなければならないというふうに思っております。

そこで、小石原川ダムの湖畔を利用した地域発展についてお尋ねしますが、（1）の国道500号線の開通予定につきましては、初日の4番議員が質問されました内容で確認をさせていただきましたので割愛させていただきます。

昨年9月定例会で私の一般質問の折にお尋ねをしておりました3件を確認させていただきます。

1件目は、3つのダムを自転車めぐる企画を実施するように計画をしているという点です。2件目は、3月にもダムの完成イベントを企画中ということです。3件目は、小石原川ダムで行いますスロージョギングや記念植樹などの企画も検討と言われておりました、この3件につきまして、よろしくお願いいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 農林商工部長。

○農林商工部長（石橋一良君） 失礼いたします。

ダムを利用しましたイベント、1つ目が自転車の関係、そして、2番目がダムのイベントの関係と、3番目がスロージョギング等でございますけれども、このそれぞれにつきましては、まず、この3つのダムを活用しました企画といたしまして、最初9月の22日、その日に予定していたもの、これについては小石原川ダムの試験湛水直前イベントということでダム湖底ウォークと。ダムの湛水前に下を歩くというところ、湖底を歩くというものがございましたけど、こちらのほうは台風の関係でちょっと中止となっております。

3月8日に予定しておりました小石原川ダムの完成直前イベントにつきましては、その中にサイクリングやスロージョギング、植樹などの企画を準備をいたしておりました。今回は、キンビール福岡工場で開催しておりましたクリテリウム、それを同時開催いたしまして、また、民間の各団体、事業所などを巻き込むなど、これまでになかった大きな取り組みができたところであります。

また、スロージョギングにつきましては、定員の4倍、約405名の応募があったなど、その反響は大変大きかったものでございます。

ただ、このように一大イベントとして準備を進めてまいりましたけれども、今回の新型

コロナウイルスの拡大を防ぐために、やむなく中止の決定をいたしております。

ただ、サイクリングのイベント、1番目にありましたサイクリングのイベントにつきまして、これにつきましては今後も継続していく予定でありまして、次こそは3つのダムを通過できるコースで実施したいと考えております。

また、植樹関係につきましても、これにつきましては、福岡市のほうと交流の意味も兼ねまして植樹関係も行っております。こちらにつきましても、今後、継続してそういう植樹活動、そういうものも続けさせていただこうとは思っております。以上でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 3番。

○3番（北川清文君） 残念ですが、コロナウイルスがパンデミックを引き起こしかねないというふうなことでございますので、その拡散防止の対策として中止になられたこともあると思います。今後また、企画を続行していただきたいというふうに思っております。

次に、（2）のコア山のその後、また今後の活用はということについてお尋ねをいたします。

コア山につきましても、観光資源として重要なポイントだということは認識されているとおりでありまして、水資源機構との間で駐車場の設置とか、植栽内容の手法、それから、活用するための用途などについては協議を進めているという状況ということでございましたが、その後、どのような状況になっているでしょうか。わかりやすく、できるだけ具体的にお願いいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 都市建設部長。

○都市建設部長（日野浩幸君） コア山について申し上げます。

コア山につきましては、水資源機構が小石原川ダムの堤体の材料を採取した土地でございます。皆伐しまして必要な材料が採取した跡地ということでございまして、全部伐採をされた状態でございます。

その中で、環境影響評価法の手続きを行っております。その手続きの中で材料の採取後は混交広葉樹、いろいろまざった形の広葉樹を植樹をすると、そういったことが約束をされております。そういった土地でございます。

それから、植樹する苗木でございますけれども、小石原川のダム周辺から採取した種子、あらかじめ種を採取しております。その採取した種を、種子を育苗いたしまして、その苗木を用いて植樹をすると、そのような計画となっております。既に一部は植樹が行われているところでございます。

このような計画的植林、これによりまして水源地涵養機能等が行われるわけでございます。桜の花、紅葉の彩り、そういったもので朝倉の四季を楽しめる場としての活用、また、民間活用を想定したサイクルスポーツ、マウンテンバイクのコースでありますとか、そういったいろいろな朝倉市を訪れていただきます観光客、そういった方の周遊、それから、さらにはリピートしていただく、そういったリピート率の向上にもつながるような、そう

いった観光資源として活用をしていくと、そういった考えでございます。

以上でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 3番。

○3番（北川清文君） 管理と、また、財産権等につきましては、また、別の機会で質問をさせていただきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

朝倉市観光振興指針の中で観光資源の活用の中で、朝倉サイクルフェスティバルの検証でもわかりますように、平成29年度2,000人が平成30年度は3,000人と1,000人もふえております。

起伏に富んだ地形は、マウンテンバイクのコースにできるのではないのでしょうかという思いはあります。初心者から中級者向け、また、上級者向けとか、いろんなコースが計画できるのではないかと考えております。日本一のコースができるというふうな思いもありますし、また、全国ベースの大会のような夢の企画もできるのではないのでしょうか。ぜひ力を入れて計画を立案してもらいたいというふうに思っております。

続きまして、（3）の原石山の活用について、お尋ねをいたします。

現在の原石山跡地の面積は、どの程度あるのでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 都市建設部長。

○都市建設部長（日野浩幸君） 約ということでお答えさせていただきます。

約1ヘクタールでございます。

○議長（堀尾俊浩君） 3番。

○3番（北川清文君） 1.2ぐらい、聞いておりましたが、1ヘクタールぐらい、約1ヘクタールちゅうことですね。わかりました。

原石山跡地の活用のお聞かせください。

○議長（堀尾俊浩君） 都市建設部長。

○都市建設部長（日野浩幸君） 原石山についてということですが、同じく、小石原川ダムの堤体材料のロック材——岩ですね。ロック材が採取された後のほうになります。堰堤上流左岸側の貯水池に面した国道500号、新しくできますけれども。その隣接する先ほど言いました約1ヘクタールですが、これが平場でございます。平場の土地になっておりますので、この土地を水源地域対策特別措置法というのがございまして、その法律に基づきまして水源地域整備計画を立てております。その中で小石原川ダムふれあい公園整備事業、そういう整備事業がございまして、そういったことで整備を予定をしております。

ダムや国道500号が完成するのに伴いまして基金事業という形で整備を進めているものでございます。

国道に面する1ヘクタールの広場ということでございます。貯水池にも面しております。国道500号を使いまして往来する車、ダムの貯水池の横で憩いを求める人、そういった

方々の集いの場として考えております。

また、1ヘクタールの広場を使いまして、ダム湖周辺でいろいろな企画を開催していただくと。各種イベント広場や駐車場としての活用が考えられます。

コア山跡地の話を先ほどさせていただきましたが、コア山のほうとの連携も考えられます。コア山でイベントをするときの駐車場としての活用など朝倉市や近隣自治体にあります観光資源との周遊、そういったものも図れると思います。多彩な利用の場として御活用いただけることを期待をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 3番。

○3番（北川清文君） 今、現場管理事務所がありますが、そのトイレとか会議室等の開放、また、活用はできるのでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 都市建設部長。

○都市建設部長（日野浩幸君） 小石原川ダムの管理事務所の分、トイレの件につきましては、こういったイベント等に使えるような形でお願いをしております。屋外にございます、屋外から使えるものがございますので、その分については活用させていただきたいということで申し入れをさせていただいて、おおむねでの了解をいただきつつある、そういった状態でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 3番。

○3番（北川清文君） 会議室等とかあると思いますが、そういったものの開放とかはできますでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 都市建設部長。

○都市建設部長（日野浩幸君） 会議室もございますけれども、会議室については今ちょっと検討中ということでございますが、一生懸命活用できるようにお願いをしていきたいと思っております。

○議長（堀尾俊浩君） 3番。

○3番（北川清文君） ぜひ活用できるような形で進めていただきたいというふうに思っております。

次に、（4）の3つの湖による復興戦略会議についてお尋ねをいたします。

3つの湖を活用し、地域、企業、行政をつなぐと聞いております。これからの朝倉、そして、隣接する東峰村や受益地である福岡都市圏であったり、さまざまな手法で地域活性化に向けた会議がなされているのかなと推測するわけでございますが、どのようなメンバーで、どのような目的を持って、どのような議論がされているのでしょうか。極めて重要な戦略会議だと思いますので、今後も継続して活動されるのかどうかもお聞かせ願いたいと思います。

○議長（堀尾俊浩君） 都市建設部長。



○都市建設部長（日野浩幸君） 3つの湖による復興戦略会議ということでございます。

3つのダムができます。地域資源として活用するというところで、また、今回の災害復興の一助となるということを期待をしているところでございます。

平成30年の8月31日に第1回目の会議を行いました。ことしの1月までに5回の会議を行っております。

復興戦略会議のメンバーは、朝倉市長、東峰村村長、そして、水資源機構の筑後川局長によって構成をされております。

小石原川ダムは、昨年12月から試験湛水も始まりまして、市内に3つのダムを持つ日本で有数の水のふるさとになったわけでございます。この3つのダムを活用して、朝倉、それから、東峰地域の一層の活性化を図るということを目的にしております。朝倉市、東峰村、それから、水資源機構が目指す姿、こういったものについて自由闊達に意見交換をする場として会議を行っており、これは取り組みの候補、何をやっていくかという取り組みの候補をまとめているものでございます。

この会議でまとめられた取り組みの候補を具体化していくための復興戦略推進チームという形で設置をしているというものでございます。

○議長（堀尾俊浩君） 3番。

○3番（北川清文君） ちょっともう少し具体的に教えていただきたいんですが、今後もそういったものは続けていかれる所存でございませうか。

○議長（堀尾俊浩君） 都市建設部長。

○都市建設部長（日野浩幸君） この復興戦略推進チームの中には、先ほどの朝倉市、東峰村のほか、福岡県、それから、水の文化村、みずまるプロジェクト、朝倉観光協会、それから、一般社団法人北部九州河川利用協会、水資源機構の関係者のほうで構成をされております。

先ほどの取り組みの候補は、調査、連携、施設、ツアー、食、イベントという6つ、こういった分類においていろいろな会議を行っております。

このチームに関しましては、民間事業者のビジネスにつながるようにならないか、イベントについては、イベントを開催して楽しむことではなく——終わるのではなく——イベントを根づかせていく、どのようにするかを議論する会議でございます。

それで、こういった会議を将来的に地域にいろんなものを根づかせていくという目的ですので、いろんな形で今後も災害復興につながることも期待しておるわけでございます。今後も闊達に意見を申し上げる場として、継続して活動していくことになると考えております。

以上でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 3番。

○3番（北川清文君） ぜひ地域発展のために継続をしていただいて、朝倉市、また、近

郊が盛り上がるような形で進めていただきたいというふうに思っております。

最後になりますが、一つの例といたしまして、私の思いですが、500号線に沿ったコア山跡地、そして、原石山跡地からの光景は、湖、ダム、橋、紅葉、花と、まさにレイクサイドの広場だというふうに思っております。こんな場所は、ほかにはないんじゃないかなというふうにも思います。民間の憩いの場になると考えられます。

また、コア山跡地のマウンテンバイクのコースにしる、原石山跡地駐車場でのイベントにしる、このような企画は民間団体で行われるように朝倉市が場を提供するようにしていただきたいというふうに考えます。関係機関の力をお借りしながら、計画を進めていかれることを期待しております。夢を実現化してもらいたいというふうに思っております。

この戦略会議につきましては、今後も注視させていただきたいというふうに思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

これをもちまして、私の全ての質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（堀尾俊浩君） 3番北川清文議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。10時25分に再開いたします。

午前10時12分休憩